

公認スポーツ指導者制度の改定について

2019年7月19日



■日本スポーツ協会公認スポーツ指導者資格の種類と認定者数(2018年10月1日付)

スポーツ指導者基礎資格	スポーツリーダー	372,420名
競技別指導者資格	指導員	114,005名
	上級指導員	11,924名
	コーチ	19,634名
	上級コーチ	6,174名
	教師	3,234名
	上級教師	1,210名
メディカル・コンディショニング資格	スポーツドクター	6,092名
	スポーツデンティスト	351名
	アスレティックトレーナー	3,825名
	スポーツ栄養士	309名
フィットネス資格	ジュニアスポーツ指導員	4,428名
	スポーツプログラマー	3,391名
	フィットネストレーナー	433名
マネジメント指導者資格	クラブマネジャー	397名
	アシスタントマネジャー	5,575名
合計(スポーツリーダーを含まない)		180,982名
合計(スポーツリーダーを含む)		553,402名

人物像	キーワード
スポーツを愛し、その意義と価値を自覚し、尊重し、表現できる人	人が好き、スポーツが好き、スポーツの意義と価値の理解
グッドプレイヤーを育成することを通して、豊かなスポーツ文化の創造やスポーツの社会的価値を高めることができる人	プレイヤーやスポーツの未来に責任を持つ
プレイヤーの自立やパフォーマンスの向上を支援するために、常に自身を振り返りながら学び続けることができる人	課題発見・課題解決、自立支援、プレイヤーのニーズ充足、卓越した専門知識(スポーツ教養含)、内省、継続した自己研鑽
いかなる状況においても、前向きかつ直向きに取り組みながら、プレイヤーと共に成長することができる人	逆境・困難に打ち克つ力、ポジティブシンキング、真摯さ、継続性、同情・共感、対象に合わせたコーチング
プレイヤーの生涯を通じた人間的成長を長期的視点で支援することができる人	プレイヤーズセンタード、プレイヤーのキャリア形成・人間的成長、中長期的視点
いかなる暴力やハラスメントも行使・容認せず、プレイヤーの権利や尊厳、人格を尊重し、公平に接することができる人	暴力・ハラスメント根絶、相互尊敬(リスペクト)、公平・公正さ
プレイヤーが、社会の一員であることを自覚し、模範となる態度・行動をとれるよう導くことができる人	社会の中の自己認識、社会規範・モラルの理解・遵守、暴力・ハラスメント根絶意識のプレイヤーへの伝達
プレイヤーやプレイヤーを支援する関係者(アントラージュ)が、お互いに感謝・信頼し合い、かつ協力・協働・協調できる環境をつくることができる人	社会との関係・環境構築、チームプレー、感謝・信頼、協力・協働・協調

【プレーヤーズセンタードとは】

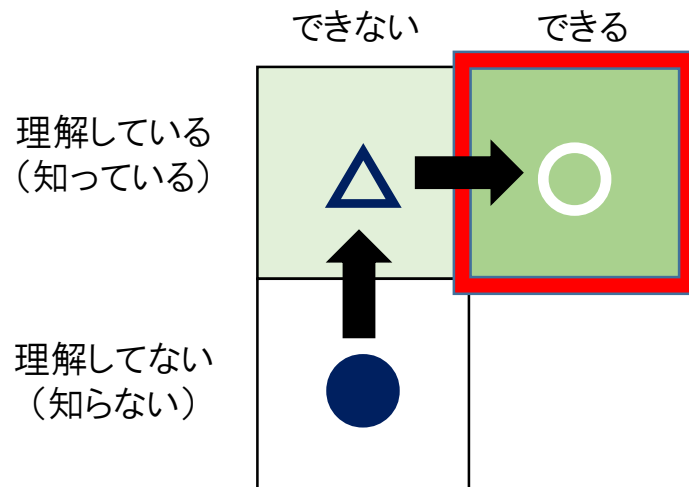
プレーヤーを取り巻くアントラージュ自身も、それぞれのWell-being（良好・幸福な状態）を目指しながら、プレーヤーをサポートしていくという考え方。

【重点】

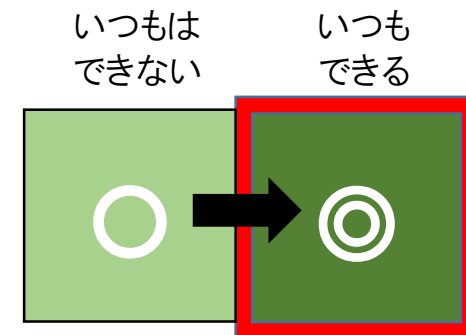
- プレーヤーが自発的な運動の楽しみを感じられるスポーツ指導とはどのような指導かを考えること。
- プレーヤーを中心に物事を考えつつも、それを取り巻くアントラージュ（コーチや保護者、トレーナーやドクターなどの医科学スタッフ等）も自身のWell-being（良好・幸福な状態）を意識すること。
- プレーヤーが、スポーツをすること、みること、ささえることなどを通じて、自身の生活（人生）をより彩りあるものにデザインすること（スポーツ・ライフデザイン）を支援すること。

- 理解した知識を現場で使える「実践力」にする
- 身につけた「実践力」を高めるための「学び続ける環境」を整備する
- 「情報交換できる環境」を整備する

➤ 講習会を通じて「実践力」を身につける
（「わかる」から「できる」へ）



➤ 研修会を通じて「実践力」をさらに高める
（「できる」から「いつもできる」へ）



- コーチデベロッパー(コーチ育成者)を養成する(「いつもできる」から「貢献する」へ)
- コーチ間の交流の場(コミュニティ)を創出する

（思考・判断、態度・行動、知識・技能）

- 人間力（思考・判断）**：自分自身のコーチングを形づくる中心にあるもの
- 人間力（態度・行動）**：プレーヤーや社会との良好な関係を築くために必要な資質能力
- 知識・技能（スポーツ知識・技能）**：スポーツ指導を行ううえで必要となるスポーツ科学の知識・技能

人間力	思考・判断		スポーツの意義と価値の理解、コーチングの理念・哲学（人が好き、スポーツが好き、スポーツの意義と価値の理解、プレーヤーやスポーツの未来に責任を持つ、社会規範、スポーツの高潔性）
	態度・行動	対自分力	学び続ける姿勢（自己研鑽）、前向きな思考・行動、くじけない心、課題発見力、課題解決力、自己統制、内省、社会規範
		対他者力（人、社会）	基本的人権の尊重、相互理解、プレーヤーズ・ファースト、暴力・ハラスメントの根絶、コミュニケーションスキル、マネジメントスキル、目標設定、協力・協調・協働、長期的視点、関係構築力
知識・技能	スポーツ知識・技能	共通	あらゆるコーチング現場に共通するスポーツ科学
		専門	個々のコーチング現場別（競技別、年代別、レベル別、障がいの有無など）に求められる専門知識・技能

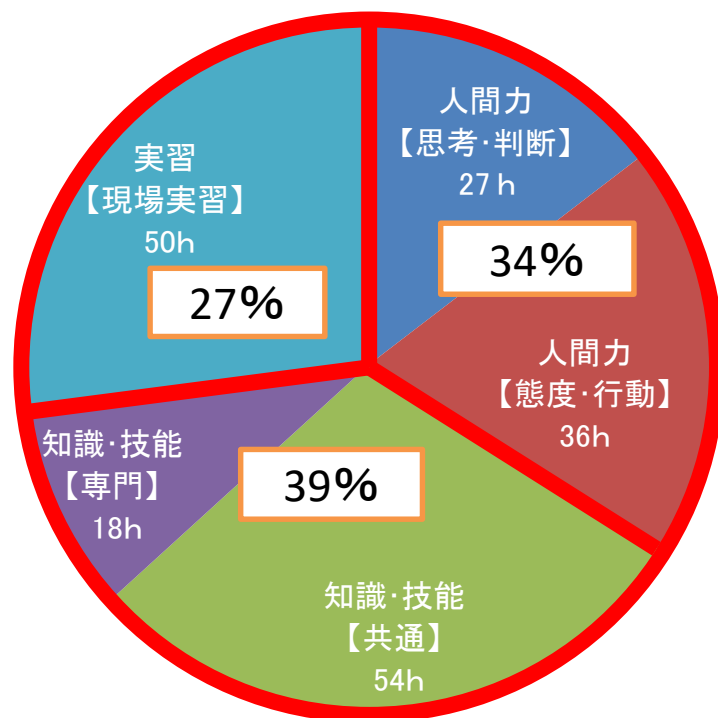
- 【人間力】 内閣府「人間力戦略研究会（平成15年）」の定義
- 社会を構成し運営するとともに、自立した一人の人間として力強く生きていくための総合的な力
- ・ 知的能力の要素：論理的思考力、創造力
 - ・ 社会・対人関係力の要素：コミュニケーションスキル、リーダーシップ、規範意識
 - ・ 自己制御の要素：意欲、忍耐力、自分らしい生き方や成功を追及する力

資質能力区分		領域	主な内容	必要最低時間数		
				基礎	応用実践	計
人間力	思考・判断	コーチングの理念・哲学	プレーヤーとともに学び続けるコーチ	9h	18h	27h
			コーチング及びコーチとは			
			コーチに求められる資質能力			
			スポーツの意義と価値			
			コーチの倫理観・規範意識			
			コーチの役割と使命(職務)			
	計			9h	18h	27h
	態度・行動	対自分力	多様な思考法	6h	12h	18h
			コーチのセルフ・コントロール			
			コーチのキャリア・デザイン			
		対他者力	コミュニケーション	6h	12h	18h
			人的環境(関係者との信頼関係)の構築			
			プレーヤーのキャリア・デザイン			
計			12h	24h	36h	
知識技能	共通	トレーニング科学	スポーツトレーニングの基本的な考え方と理論体系	9h	18h	27h
			体力トレーニング			
			技術トレーニング			
			メンタルトレーニング			
		スポーツ医・科学	スポーツと健康	9h	18h	27h
			外傷と障害の予防			
			救急処置			
			アンチ・ドーピング			
	専門	現場における理解と対応	スポーツと栄養	6h	12h	18h
			スポーツの心理			
			ライフステージに応じたコーチング			
			プレーヤーの特性に応じたコーチング			
			コーチングにおけるリスクマネジメント			
		クラブ・チームの運営と事業				
	コーチング現場の特徴					
計			24h	48h	72h	
合計				45h	90h	135h
実習	現場実習	コーチングの実践と評価	5日	20日	50h	
			10h	40h		

モデル・コア・カリキュラムと日本スポーツ協会 共通科目Ⅰ～Ⅲカリキュラム(旧)の比較

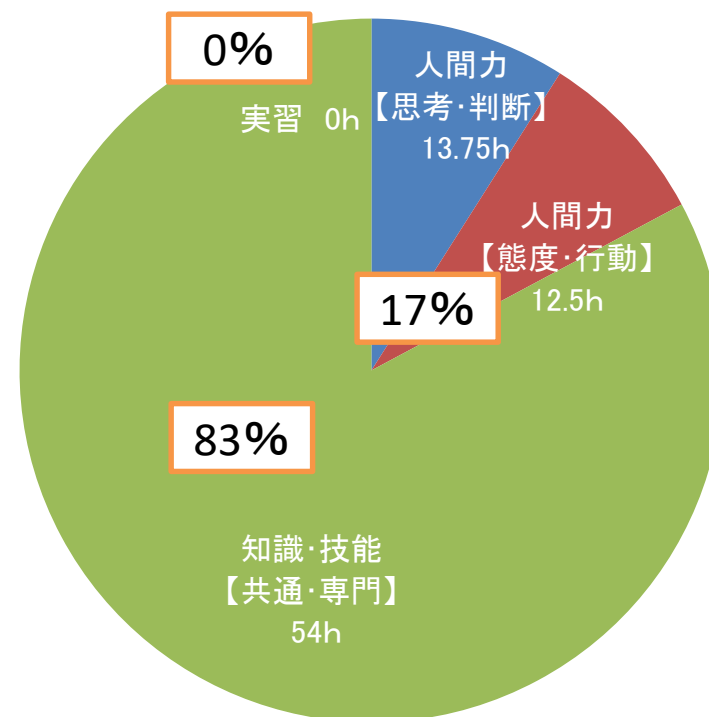
<モデル・コア・カリキュラム>

人間力	思考・判断	27h	34%
	態度・行動	36h	
知識・技能	一般共通	54h	39%
	専門共通	18h	
実習	現場実習	50h	27%



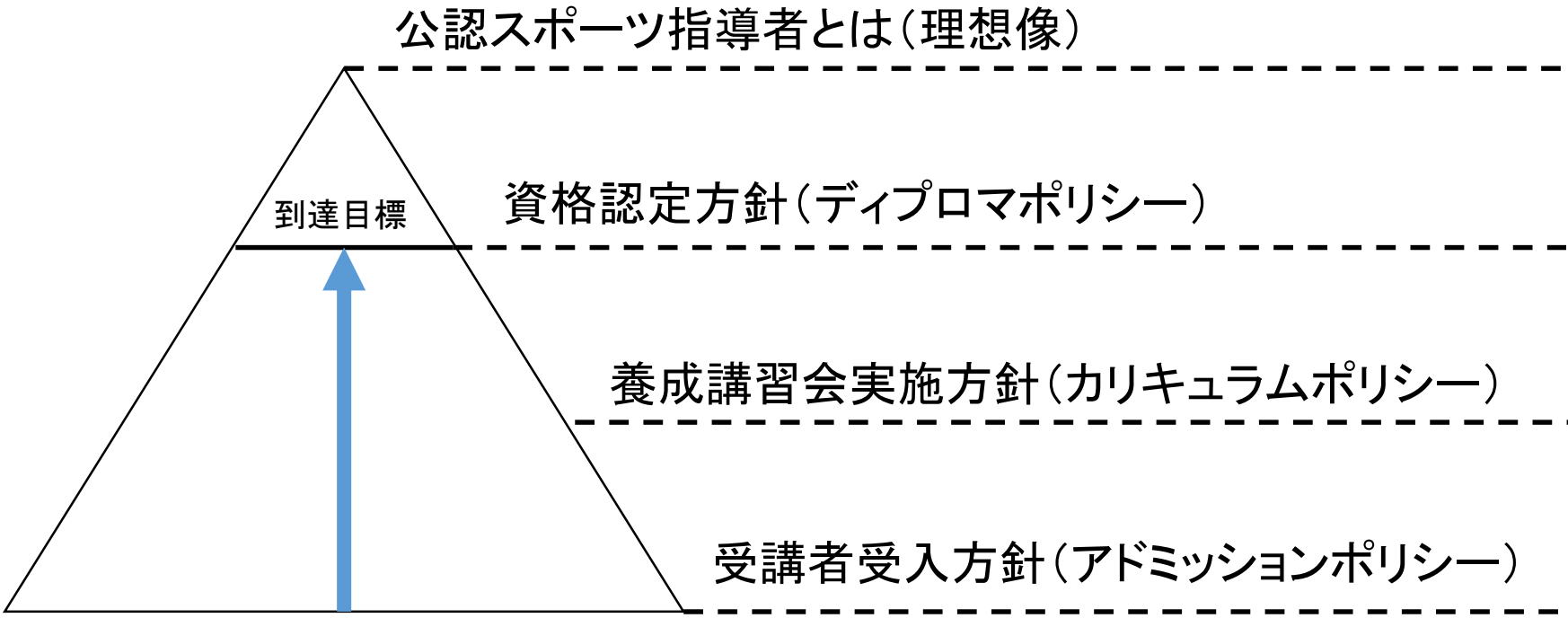
<共通科目Ⅰ～Ⅲ(旧)>

人間力	思考・判断	13.75h	17%
	態度・行動	12.5h	
知識・技能	一般共通	126.25h	83%
	専門共通		
実習	現場実習	0h	0%



【基本コンセプト】

日本スポーツ協会及び加盟団体等は、スポーツ文化を豊かに享受するというすべての人々がもつ基本的な権利を保障するため、ライフステージに応じた多様なスポーツ活動を推進することのできるスポーツ指導者を公認スポーツ指導者として育成し、望ましい社会の実現に貢献する。



年度	共通科目Ⅰ	共通科目Ⅱ	共通科目Ⅲ	共通科目Ⅳ
2019年度 新制度 旧カリ／新カリ	現行制度による 通信講座（旧カリ）	モデル・コア・カリキュラムを用いた アクティブラーニング形態の講習会（新カリ）		
2020年度 新制度 新カリ	モデル・コア・カリキュラムを用いた通信講座（新カリ）			
2021年度				

※旧カリ＝2018年度までのカリキュラム

※新カリ＝モデル・コア・カリキュラムを基に作成するカリキュラム

※新カリにおける共通科目Ⅰの学習効果をより高めるため、共通科目Ⅰの集合講習会実施の方法については、今後、大学との連携を模索したい。

1. 競技別指導者資格の名称変更／スタートコーチの新設

上級コーチ	→	コーチ4	公認スポーツ指導者制度改定のキーワードのひとつである「学び続ける」環境を提供し、学びのステップアップを促進する趣旨から、左記のとおり変更。
コーチ	→	コーチ3	
上級指導員	→	コーチ2	
指導員	→	コーチ1	
		スタートコーチ (新設)	上位資格者と協力し安全で効果的な活動を提供するコーチングアシスタント（指導補助）。スポーツの意義と価値、指導者の倫理観、安全管理等を中心に1日の集合講習で取得可能。

2. カリキュラム・共通科目講習会実施形態の変更

共通科目

- ・コーチ育成のための「モデル・コア・カリキュラム」を導入
- ・共通科目コーチデベロッパー（コーチ育成者）によるアクティブラーニング形式の集合講習会を展開
- ・eラーニング（オンラインテスト）や事後学習の導入

専門科目（競技別指導者資格）

- ・カリキュラム時間数の変更

3. 新資格（スポーツ指導者基礎資格）の創設（2020年度）

制度改定のコンセプトのひとつである「学び続ける」ことをスポーツ指導者基礎資格でも実現させるため、4年ごとの更新登録が必要な資格として新資格（スポーツ指導者基礎資格）を2020年度に創設する。

※スポーツリーダーの新規養成は、段階的に休止。併せて新資格への移行を受け付ける。

1-1 競技別指導者資格の名称変更

改定前

指導員

上級指導員

コーチ

上級コーチ

改定後 (2019年4月1日～)

コーチ 1

コーチ 2

コーチ 3

コーチ 4



(例)

陸上競技指導員

テニスコーチ

陸上競技コーチ 1

テニスコーチ 3

●登録証の切り替えについて

新たな資格名称での登録証の発行は2019年4月1日付登録・更新手続きから順次、それぞれの資格更新手続きにあわせて対応（更新手続き以外での登録証の発行は、有料での対応）。

●指導者マイページの表記変更について

指導者マイページに表記されている資格名称は、2019年4月上旬に新名称に切替済（オリジナル名刺作成サービスも新名称に切替済）。

●その他

資格名称の変更に伴う手続きや追加の講習会等はなし。

1-2 スタートコーチの新設（概要）

- **役割**：総合型地域スポーツクラブ・スポーツ少年団・学校運動部活動等での指導補助として、上位資格者と協力して安全で効果的な活動を提供する者
- **養成団体**：中央競技団体および同加盟・協力・関係団体
 - ※実施に伴う手続き（申請・報告）は中央競技団体
 - ※カリキュラム作成済競技：バレーボール、フェンシング、バドミントン、スポーツクライミング
- **受講科目**：共通科目スタートコーチ15h＋専門科目4h以上
 - ※集合講習会は7時間30分（昼食時間除く）
- **受講条件**：満18歳以上（受講年度の4月1日現在）で専門科目実施団体が認めた者
- **受講料**：中央競技団体において決定
 - ※1名当たり1,000円（税別）の受講管理料を実施報告時に日本スポーツ協会に納入【2020年度開始予定のスタートコーチ（スポーツ少年団）養成講習会、受講管理料を徴収しない予定】
 - ※共通科目の教材として日本スポーツ協会作成のリファレンスブックを購入
- **登録料**：10,000円（4年間）
 - ※別途、新規登録時は初期登録手数料3,000円、競技によっては資格別登録料が必要
- **更新研修**：他資格と同様（有効期限の6か月前までに最低1回受講）
 - ※競技によっては指定された研修

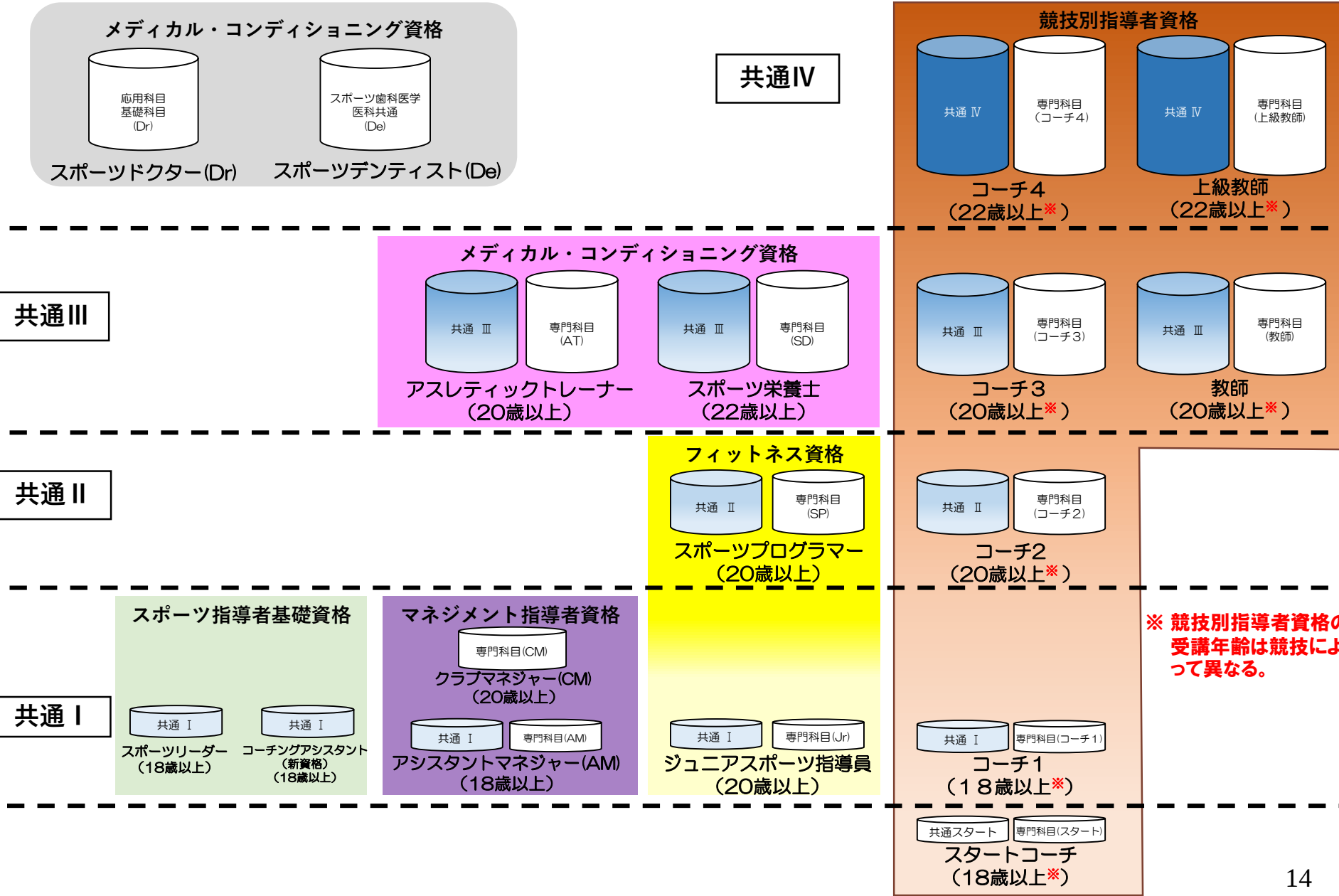
バレーボールのみ2019年度から養成を開始する予定

1-2 スタートコーチの新設（基本日程）

合計：7時間30分（昼食時間除く）

共通科目・専門科目 別運営	共通科目・専門科目 統合運営
場作り(導入) 【20分】	場作り(導入) 【20分】
指導者の責任と役割(共通) 【70分】	安全なスポーツ実施環境を確保する 【60分】
指導のプロセス(共通) 【90分】	適切なウォームアップを指導する 【60分】
専門科目 【240分】	プレーヤーが主体的に取り組める 練習を計画、運営する(1) 【60分】
	プレーヤーが主体的に取り組める 練習を計画、運営する(2) 【130分】
	適切なクールダウン 【60分】
	コーチ自身の成長の計画を 立ててみよう 【60分】
コーチ自身の成長の計画を 立ててみよう 【30分】	

2-1 カリキュラムの変更 カリキュラム相関図(受講年齢)



旧カリキュラム

科目の区分によって、
学ぶ科目名(項目名)が異なる

共通Ⅳ 40h

科目名	内容	時間数
トップアスリートを目指す者への基礎知識	トップアスリートを目指す者の基礎知識 ・トレーニングの意義 ・海外研修の意義とその方法 ・海外研修の進め方とその方法 ・海外研修の進め方とその方法 ・海外研修の進め方とその方法	40

共通Ⅲ 82.5h

科目名	内容	時間数
指導者の役割	指導者の役割 ・指導者の役割 ・指導者の役割 ・指導者の役割	7.5
アスリートへの指導・教育	アスリートへの指導・教育 ・アスリートへの指導・教育 ・アスリートへの指導・教育 ・アスリートへの指導・教育	5
スポーツの心構え	スポーツの心構え ・スポーツの心構え ・スポーツの心構え ・スポーツの心構え	10
基礎知識の向上と向上	基礎知識の向上と向上 ・基礎知識の向上と向上 ・基礎知識の向上と向上 ・基礎知識の向上と向上	10
トレーニングの知識	トレーニングの知識 ・トレーニングの知識 ・トレーニングの知識 ・トレーニングの知識	10
競技者育成のための知識	競技者育成のための知識 ・競技者育成のための知識 ・競技者育成のための知識 ・競技者育成のための知識	20
スポーツ指導者に必要となる専門知識	スポーツ指導者に必要となる専門知識 ・スポーツ指導者に必要となる専門知識 ・スポーツ指導者に必要となる専門知識 ・スポーツ指導者に必要となる専門知識	20
その他	その他 ・その他 ・その他 ・その他	20

共通Ⅱ 35h

科目名	内容	時間数
社会の中のスポーツ	社会の中のスポーツ ・社会の中のスポーツ ・社会の中のスポーツ ・社会の中のスポーツ	5
スポーツの意義	スポーツの意義 ・スポーツの意義 ・スポーツの意義 ・スポーツの意義	5
スポーツの心構え	スポーツの心構え ・スポーツの心構え ・スポーツの心構え ・スポーツの心構え	10
スポーツ指導者の役割と使命	スポーツ指導者の役割と使命 ・スポーツ指導者の役割と使命 ・スポーツ指導者の役割と使命 ・スポーツ指導者の役割と使命	10
指導者に求められるスポーツ知識	指導者に求められるスポーツ知識 ・指導者に求められるスポーツ知識 ・指導者に求められるスポーツ知識 ・指導者に求められるスポーツ知識	10

共通Ⅰ 35h

科目名	内容	時間数
文化としてのスポーツ	文化としてのスポーツ ・文化としてのスポーツ ・文化としてのスポーツ ・文化としてのスポーツ	3.75
指導者の役割	指導者の役割 ・指導者の役割 ・指導者の役割 ・指導者の役割	5
トレーニングの知識	トレーニングの知識 ・トレーニングの知識 ・トレーニングの知識 ・トレーニングの知識	3.75
スポーツ指導者に必要となる専門知識	スポーツ指導者に必要となる専門知識 ・スポーツ指導者に必要となる専門知識 ・スポーツ指導者に必要となる専門知識 ・スポーツ指導者に必要となる専門知識	10
スポーツの意義	スポーツの意義 ・スポーツの意義 ・スポーツの意義 ・スポーツの意義	3.75
指導者に求められるスポーツ知識	指導者に求められるスポーツ知識 ・指導者に求められるスポーツ知識 ・指導者に求められるスポーツ知識 ・指導者に求められるスポーツ知識	3.75

新カリキュラム

科目の区分に関わらず、学ぶ項目名は共通
【区分によって学ぶ内容の深さ・量が異なる】

全ての受講者が資質能力区分を一通り学習

共通Ⅳ
151h以上

共通Ⅲ 150h

共通Ⅱ 135h

共通Ⅰ 45h

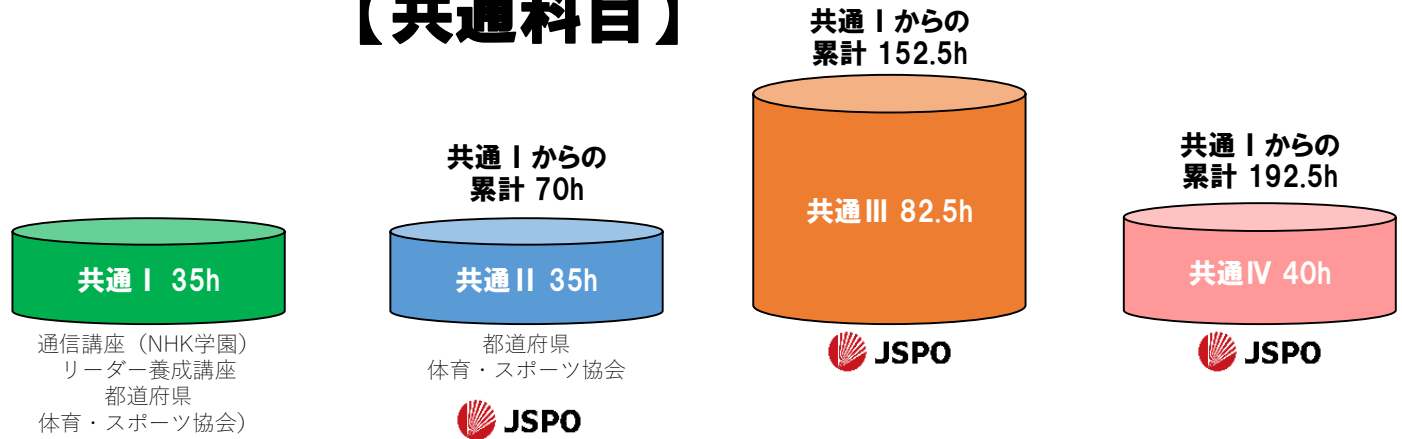
共通スタート 15h

- 1.グッドコーチ(日本スポーツ協会公認スポーツ指導者)に求められる人間力
 - (1) コーチングを理解しよう
 - ① コーチングおよびコーチとは
 - ② スポーツの意義と価値
 - ③ コーチに求められる知識とスキル
 - (2) 対他者力を磨こう
 - ① リーダーシップ
 - ② 信頼関係構築におけるコミュニケーションの重要性
 - (3) 対自己力を磨こう
 - ① コーチの学びとセルフマネジメント
- 2.グッドコーチ(日本スポーツ協会公認スポーツ指導者)に求められる医・科学的知識
 - (1) 安全なスポーツ環境の構築
 - (2) スポーツトレーニングの基本的な考え方と理論体系
 - (3) 体力のトレーニング
 - (4) スキルのトレーニング
 - (5) 心のはたらきと向き合い方
 - (6) スポーツと栄養
 - (7) スポーツに関連する医学的知識
 - (8) アンチ・ドーピング
- 3.現場・環境に応じたコーチング
 - (1) コーチング環境の特徴
 - (2) コーチングにおけるリスクマネジメント
 - (3) ハイパフォーマンスアスリートに対するコーチング
 - (4) スポーツ組織のマネジメント
 - (5) アントラージュの一員としてコーチングを理解する

※共通Ⅰの簡易版(コーチングと安全管理が中心)

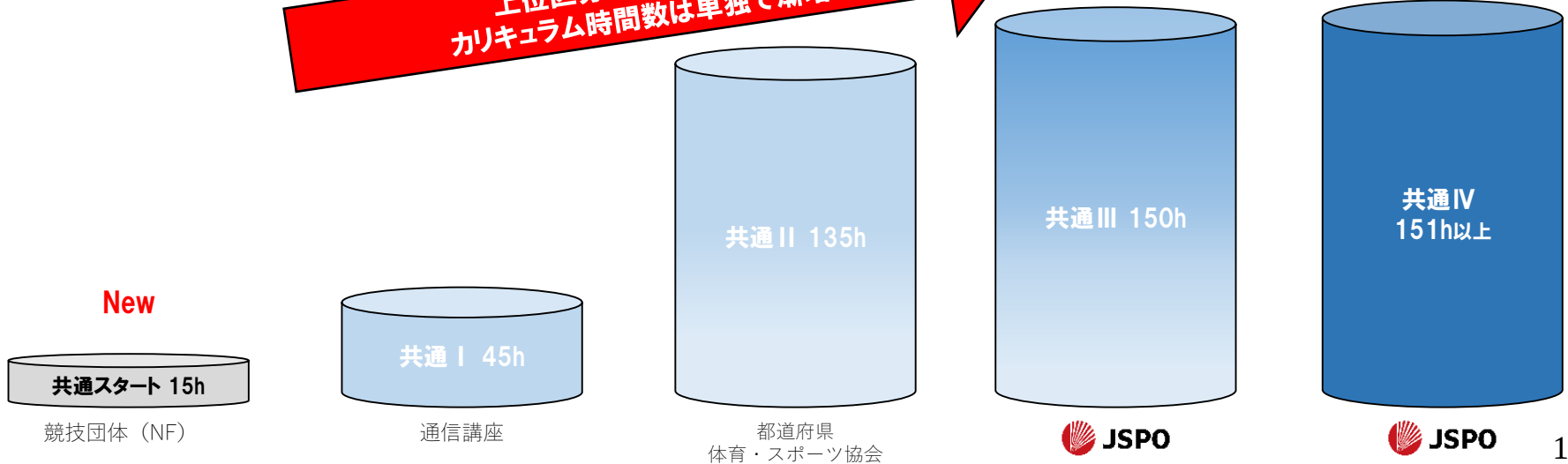
カリキュラム時間数(集合&自宅)の漸増 【共通科目】

<旧>



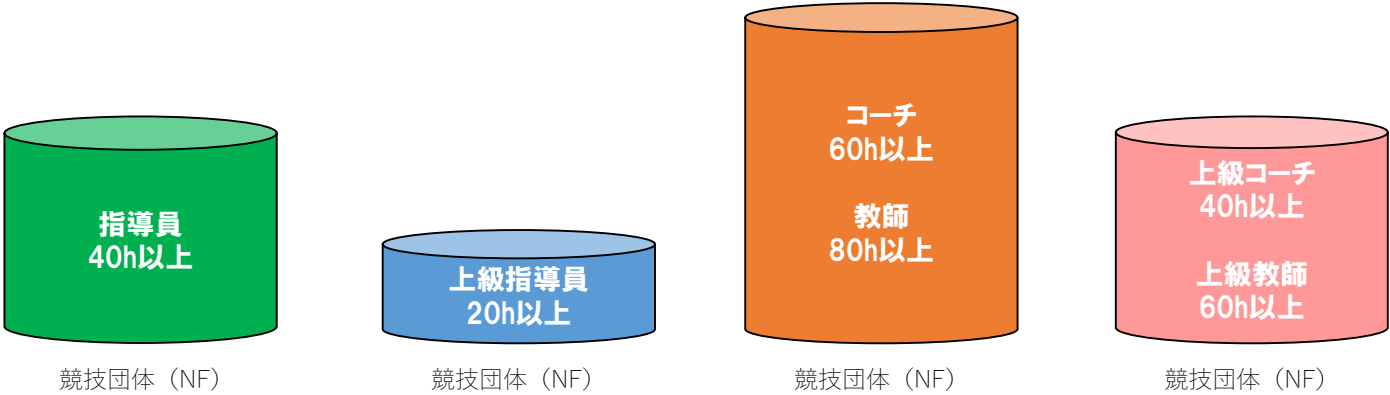
<新>

上位区分になるにつれて
カリキュラム時間数は単独で漸増



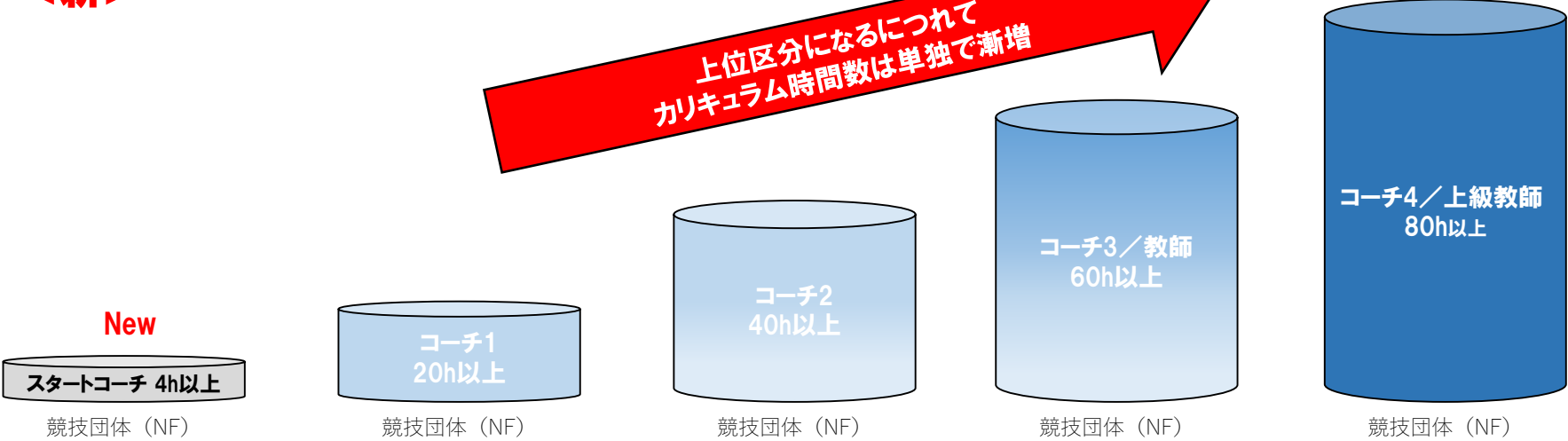
カリキュラム時間数(集合 & 自宅)の漸増
【専門科目】

<旧>



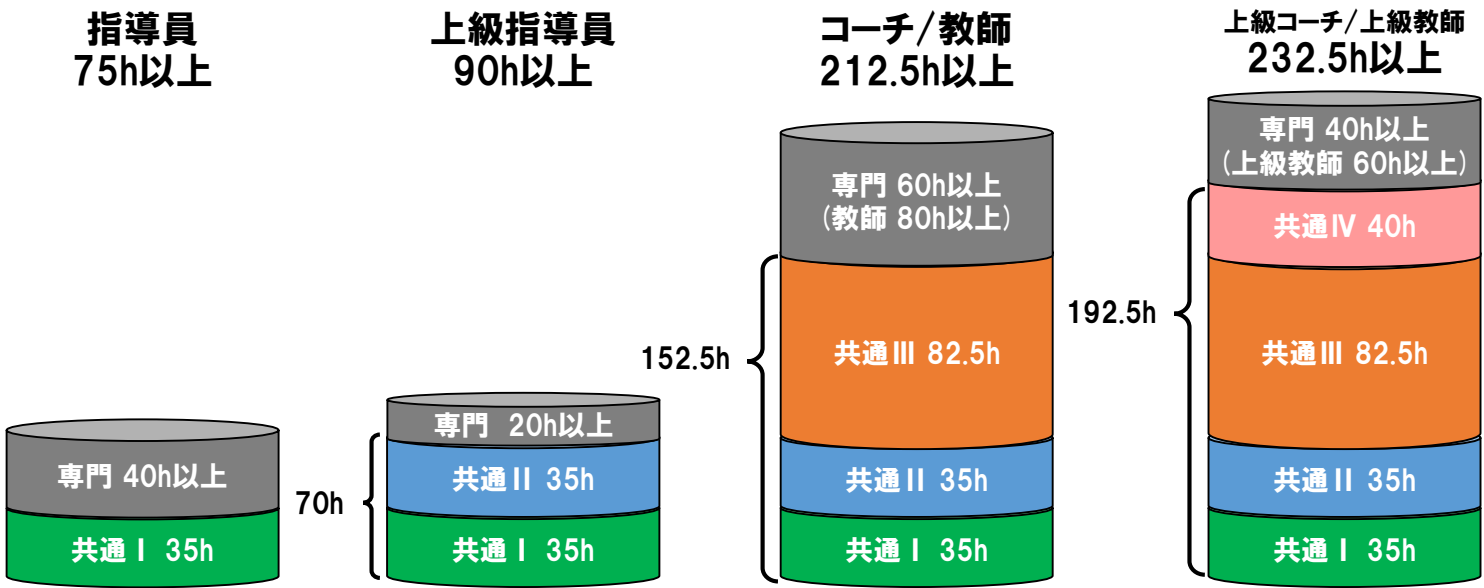
<新>

上位区分になるにつれて
カリキュラム時間数は単独で漸増



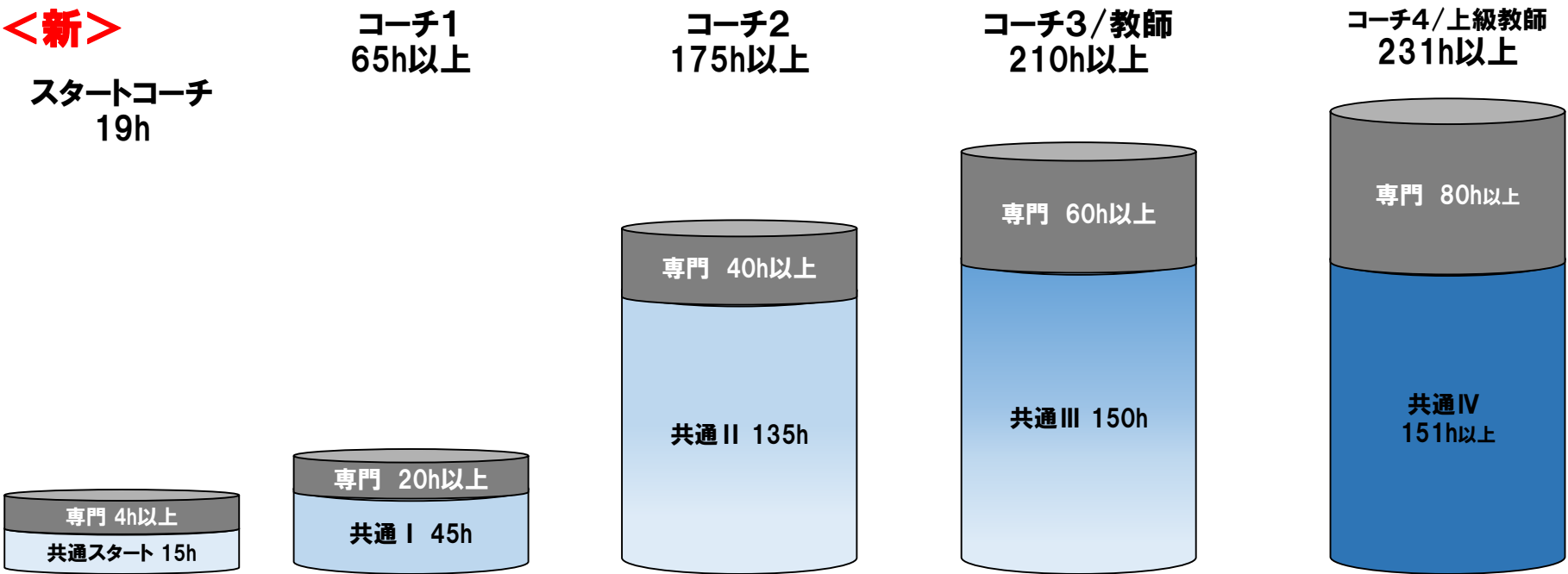
2-1 カリキュラムの変更 時間数対比【合計】

<旧>

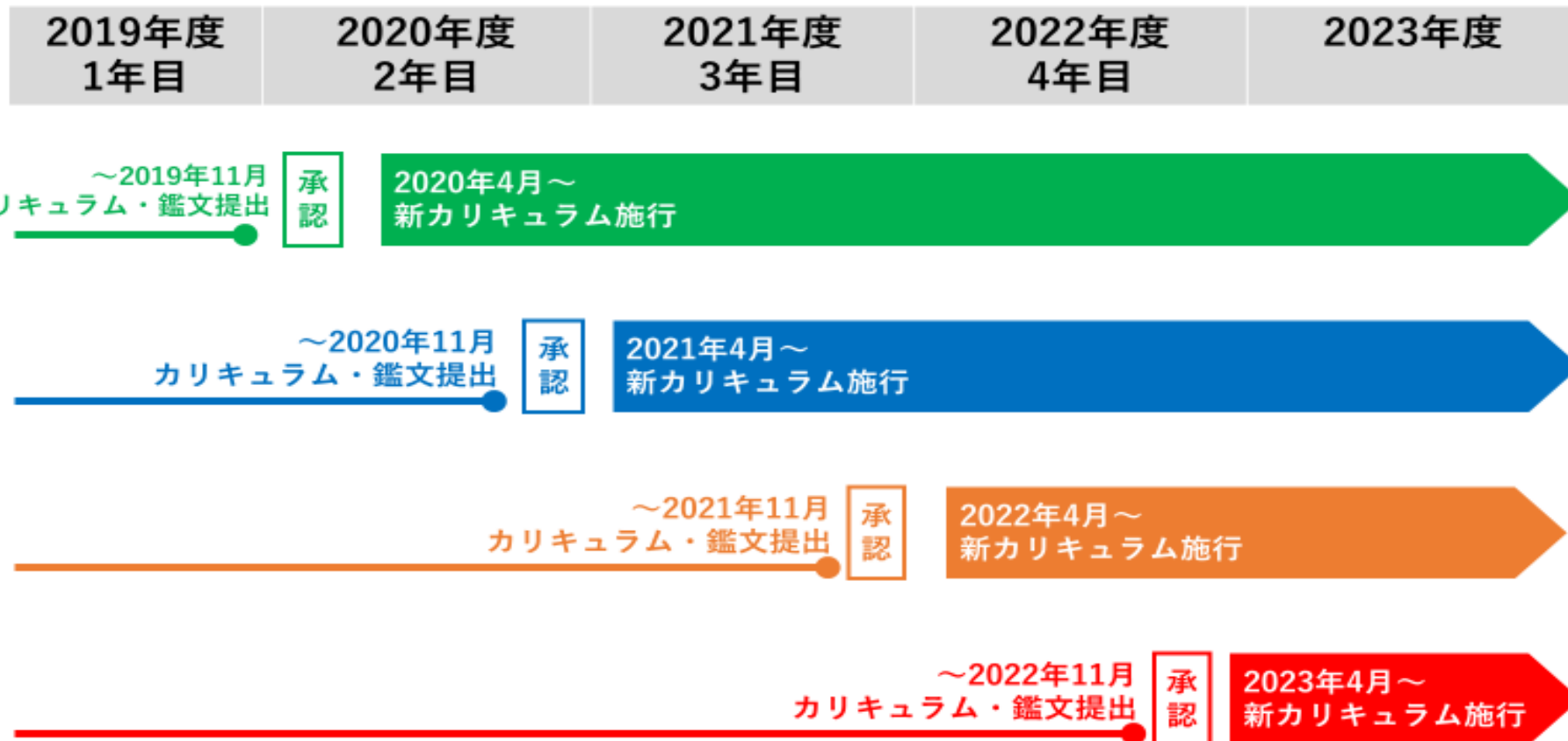


<新>

スタートコーチ
19h



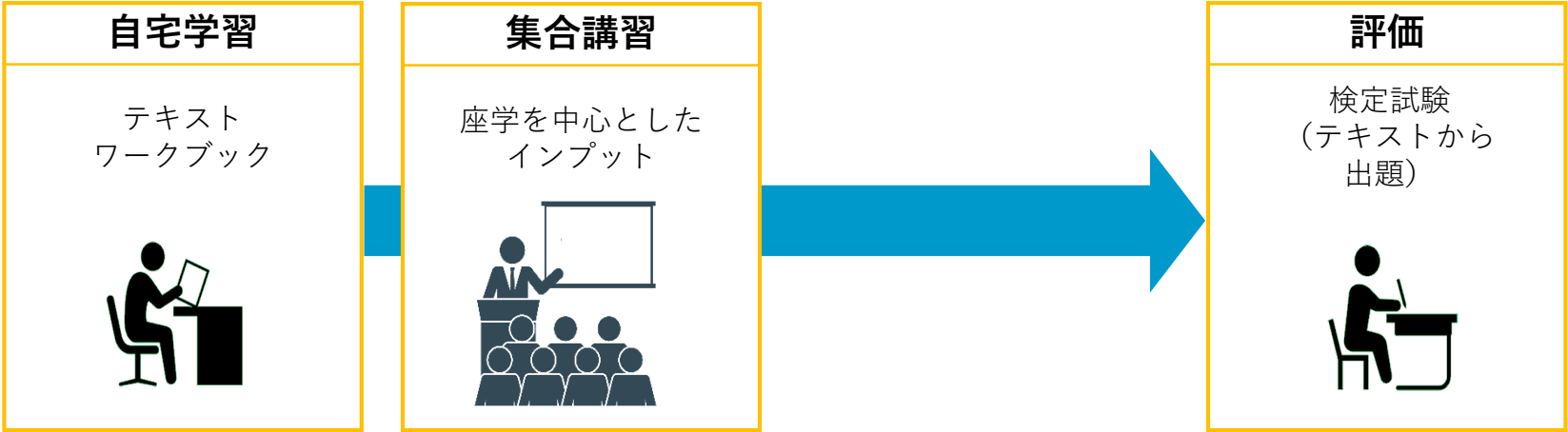
改定移行期間：2019～2022年度



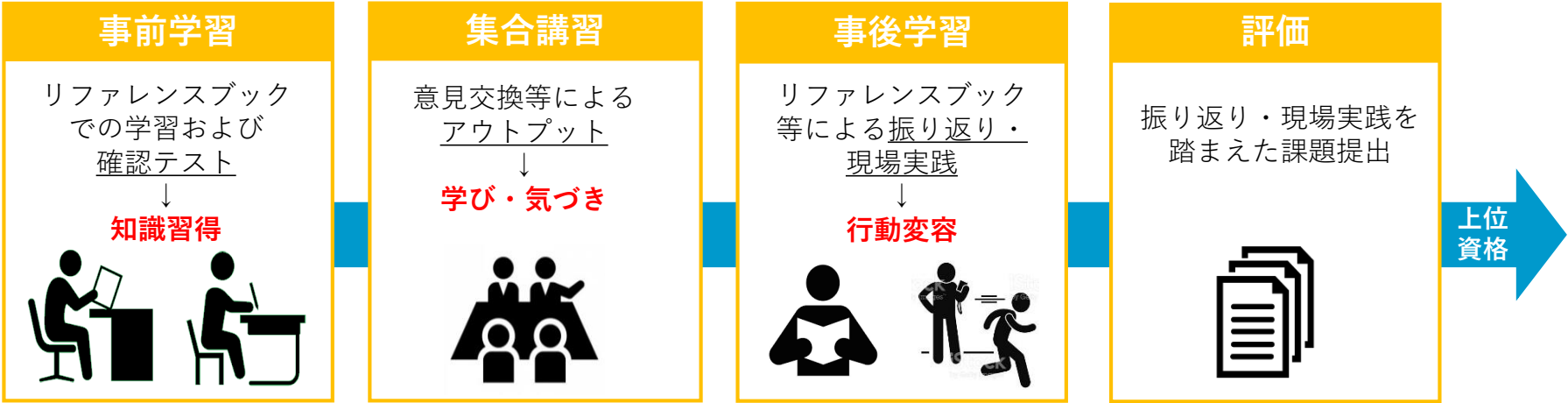
※公認スポーツ指導者制度改定に伴う覚書

各団体と締結している覚書について、2019年4月1日以降、養成内容等の変更（専門科目カリキュラム改定やスタートコーチ養成開始等）にあわせて、新たな内容により締結

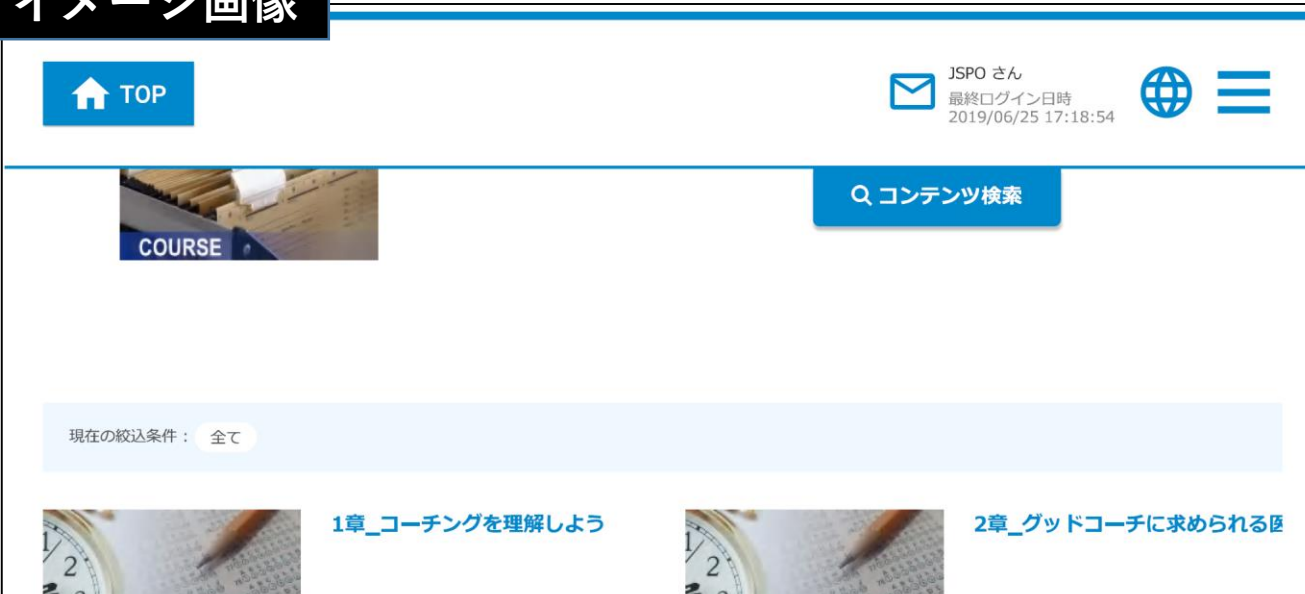
旧



新



イメージ画像



現在の絞込条件: 全て

1章_コーチングを理解しよう

未実施 実施中 完了 説明

2章_グッドコーチに求められる資

未実施 実施中 完了 説明

3章_現場・環境に応じたコーチ

未実施 実施中 完了 説明

第 1問 / 全 5問

サンプル 共通科目 I 検定試験_001
公認スポーツ指導者について正しいのはどれか。

- ① 日本体育協会だけで養成・認定している。
- ② スポーツ医・科学の知識はあまり重要でない。
- ③ 常にプレーヤーを最優先するというスタンスに立つ。
- ④ スポーツの本質的な楽しさよりも人生の厳しさを強く伝える。

次へ 採点

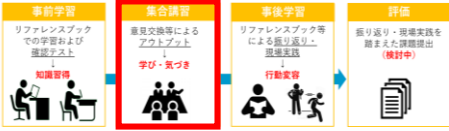
【問題数】

共通科目III:200問

共通科目II:100問

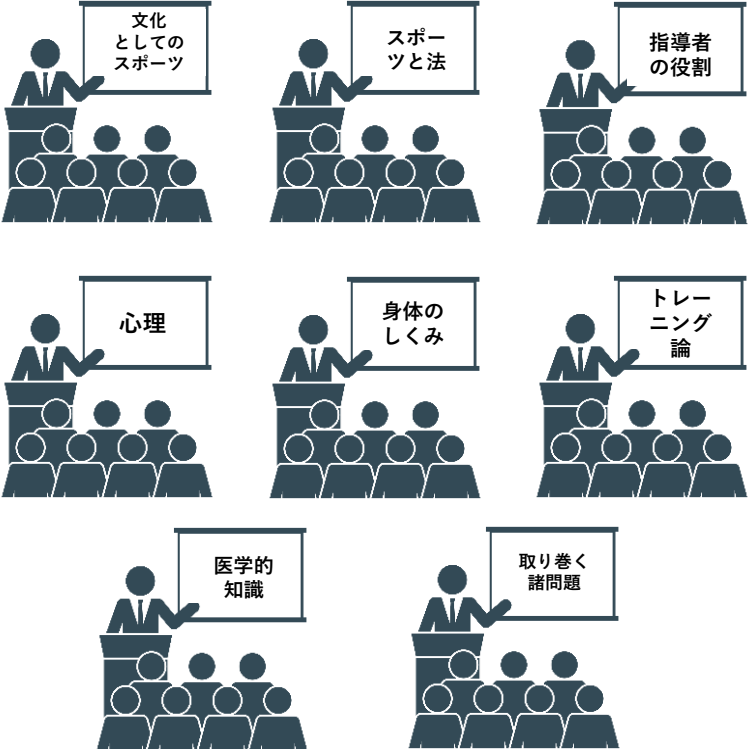
【合格ライン】正答率6割以上

集合講習では分野横断的なテーマを取り扱い
アウトプット中心とした学び・振り返りの場とする



<旧>
集合講習

各分野の講師がそれぞれ
テキストに沿って講義



<新>
集合講習

コーチングの分野を中心に
横断的なテーマを設定

<事前学習>
基本知識の修得（特に医・科学的知識）

<集合講習>
知識の修得というよりも、現場での活用を想定した
受講者同士による意見交換等（二律背反によるジレンマトレーニング、ケーススタディ、専門家との連携等）を通じて、自身の考え方・指導方法について
学び・振り返る場とする。

受講者 50名～100名／会場
講師 メイン1名＋1～2名
※受講者数による



2018年度修了者数

推薦団体 居住県	都道府県体育・ スポーツ協会	中央競技団体	コーチング学会・ 体育学会	計	推薦団体 居住県	都道府県体育・ スポーツ協会	中央競技団体	コーチング学会・ 体育学会	計
1 北海道	0	0	0	0	25 滋賀県	0	0	1	1
2 青森県	0	0	0	0	26 京都府	0	0	1	1
3 岩手県	1	0	0	1	27 大阪府	0	0	1	1
4 宮城県	0	0	0	0	28 兵庫県	0	0	0	0
5 秋田県	0	2	0	2	29 奈良県	0	0	0	0
6 山形県	0	0	0	0	30 和歌山県	1	0	0	1
7 福島県	0	0	0	0	31 鳥取県	0	0	0	0
8 茨城県	0	2	2	4	32 島根県	1	0	0	1
9 栃木県	1	0	0	1	33 岡山県	0	0	1	1
10 群馬県	2	0	0	2	34 広島県	0	1	0	1
11 埼玉県	0	0	0	0	35 山口県	1	0	0	1
12 千葉県	0	1	1	2	36 香川県	1	1	0	2
13 東京都	0	6	3	9	37 徳島県	0	0	0	0
14 神奈川県	0	0	3	3	38 愛媛県	0	0	0	0
15 山梨県	0	0	1	1	39 高知県	0	0	0	0
16 新潟県	1	0	0	1	40 福岡県	0	1	0	1
17 長野県	0	0	0	0	41 佐賀県	1	0	0	1
18 富山県	1	0	0	1	42 長崎県	0	0	0	0
19 石川県	1	0	0	1	43 熊本県	0	0	0	0
20 福井県	0	0	0	0	44 大分県	0	0	0	0
21 静岡県	0	0	0	0	45 宮崎県	0	0	0	0
22 愛知県	0	0	2	2	46 鹿児島県	0	0	1	1
23 三重県	0	0	0	0	47 沖縄県	1	0	0	1
24 岐阜県	0	0	0	0	計	13	14	17	44

従来の区分別テキストを一冊に集約した「リファレンスブック」を作製する

<旧> テキスト

科目区分によって
学ぶ科目名（項目名）が
異なるため
テキストも分かれている



合計560ページ

<新> リファレンスブック

科目の区分に関わらず学ぶ項目名は
共通とするため、
知識を獲得するための
リファレンスブックは1冊に集約
(Full Ver.)



カリキュラム時間数の少ない
「共通I」、「共通スタート」用に
Full Ver.から簡易版を別途作成

内容は
現テキストを踏襲

<簡易版>



※ 集合講習会後も適宜振り返り、参照してもらえるものを目指し
「テキスト」から「リファレンスブック」に名称を改める

科目	資格名	現行		改定後		
		税抜	税率8%	税抜	税率8%	税率10%
共通科目Ⅱ	コーチ2	14,000	15,120	16,000	17,280	17,600
	スポーツプログラマー	20,000	21,600	16,000	17,280	17,600
共通科目Ⅲ	コーチ3	18,000	19,440	20,000	21,600	22,000
	アスレティックトレーナー					
	スポーツ栄養士					
	教師	54,000	58,320	56,000	60,480	61,600
共通科目Ⅳ	コーチ4	26,000	28,080	28,000	30,240	30,800
	上級教師	54,000	58,320	56,000	60,480	61,600

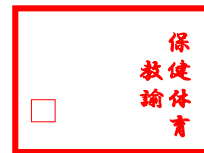
※リファレンスブック（テキスト）

受講料と別に、リファレンスブック代として代金を徴収（価格は養成講習会受講者用）

- フルバージョン用（共通科目Ⅱ以上）3,000円（税別）
- 共通科目Ⅰ用1,500円（税別）
- スタートコーチ用未定

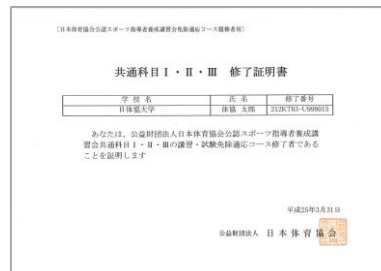
【廃止】

保健体育の教員免許状による集合講習免除



＜今後も引き続き免除扱い＞

大学等における免除適応コースの修了証明書
他の資格受講時に取得した共通科目修了証明書
スポーツリーダー認定証(共通Ⅰ) ほか



※上位区分の修了証明書を保有の場合、下位区分は免除
【例】 共通Ⅱ修了済み → 共通Ⅰは免除

未修了者(過年度受講者)の対応

～2018年度			2019年度～	
集合講習会	検定試験		講習会	検定試験
部分受講済	—	→	未受講部分の 課題提出	旧カリキュラム
			新カリキュラム ※希望者、免除なし	
未受講	—	→	新カリキュラム	
受講済	未合格	→	—	旧カリキュラム

2019年度以降のスポーツリーダー資格

1. 新規養成：段階的な中止

集合講習会：2019年度以降は養成不可

※2018年度までに開催実績がある団体は2022年度までは養成可能

通信講座（NHK学園）：2019年度秋期まで受講可（予定）

※2019年秋期（申込8-10月、受講11-1月、成績4月）

免除適応コース履修中の者：2023年度まで対応予定

公認資格保有者等による申請：2019年度で受付終了予定

2. 認定：

永年認定資格であるため、2019年度以降も認定を継続

3. 新資格(スポーツ指導者基礎資格)の創設(2020年度)

新資格(スポーツ指導者基礎資格)

1. 創設：2020年度（予定）

2. 名称：コーチングアシスタント

3. スポーツリーダーからの移行：

希望する者は、原則として2023年度までに新資格へ移行することが可能(手続き方法等の詳細は未定)。

4. スケジュール（予定）：

年度		2019		2020		2021		2022		2023	
		上期	下期	上期	下期	上期	下期	上期	下期	上期	下期
通信講習	スポーツリーダー	秋期(申込:8-10月、受講:11-1月、成績:4月)まで									
	更新制新資格 (名称検討中)			【案1】春期(申込:2-4月、受講:5-7月、成績:10月)から開始							
					【案2】夏期(申込:5-7月、受講:8-10月、成績:1月)から開始						
				【案3】通年							
集合講習・ 適応コース	スポーツリーダー	2022年度まで※1									
	更新制新資格 (名称検討中)			2020年度から							
移行期間※2 (2020年10月認定～)				(原則として)2023年度まで							

※1 スポーツ少年団認定員養成講習会は2019年度で終了予定。2020年度以降は2018年度までに開催実績を有する団体のみを対象とする。

※2 現行スポーツリーダーが希望により更新制新資格に移行する期間